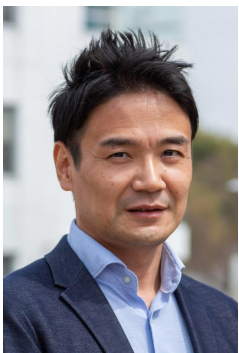


クラス番号	326	担当教員名	堀場 純矢
		他専修学生受入上限人数	1名
テーマ	児童養護施設における子ども・家族への支援と職員の働き方		
著書・論文 研究課題等	<p>論文：「児童養護施設職員の労働問題と労働組合の役割」『大原社会問題研究所雑誌』775号(2023年),「子ども・支援者双方の人権が保障される社会的養護改革の必要性」『福祉のひろば』273号(2022年),「児童養護施設職員が働き続けられる環境づくり」『総合社会福祉研究』第50号(2021年)ほか</p> <p>研究課題：児童養護施設における小規模化の影響、児童養護施設職員の労働問題</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：児童養護施設、社会的養護、子どもの貧困・虐待、職員の働き方			
<p>目的・内容・方法： 近年、児童養護施設では、小規模かつ地域分散化が進められています。そこでは、家庭的な環境で子どもたちを支援することができる一方、ホームごとに職員が分散して勤務することにより、職員の働き方が大きく変化しています。加えて、高機能化・多機能化(里親支援、一時保護など)も進められていくことになります。</p> <p>そこで、ゼミではこうした状況を踏まえて、①子どもが施設入所に至った背景には何があるのか、②困難を抱えた子ども・家族をどのように支援していくのか、③職員が安心して働き続けるためにはどうしたらよいかなどについて学んでいきます。具体的には、下記の「授業計画」のように進めていきます。</p> <p>また、施設見学や全国児童養護問題研究会に参加するなかで、施設職員や施設経験者との学習・交流を通して、社会的養護について体験的に理解を深めていきます。その他、希望者を対象に、全国各地の先駆的な実践をしている児童養護施設の見学も行っています。</p> <p>ゼミではこれらの活動を通して、卒業論文(以下、卒論)を完成させるとともに、将来、児童養護施設や児童相談所などで働くために必要な知識を身につけることを目的としています。</p>			
<p>授業計画：</p> <p>・3年生の前期は、学生同士の交流を行った後、社会的養護に関するテーマごとにグループ分けを行い、グループ作業を行います。それと並行して、全国児童養護問題研究会全国大会(希望者)に参加するとともに、グループごとに児童養護施設・母子生活支援施設・乳児院などに施設見学(児童自立支援施設、少年院、児童相談所も可)に行きます。その他、ゼミ生の希望があれば、県外の施設見学とセットでゼミ合宿を行う場合があります。</p> <p>後期は、夏休みの課題についての報告を行った後、研究誌(2024年度は『社会的養護研究』Vol.4<創英社>の予定。購入補助あり)をもとに、レジュメの作成・報告・意見交換を行った後、卒論に向けての個別発表を行います。</p> <p>・4年生の前期は、卒論の執筆・添削を行うとともに、ゼミで卒論に関する報告会などを行います。そして、後期に卒論の下書きを提出した後、添削や修正などを経て、卒論を完成させます。</p> <p>※ゼミを希望する学生は、エントリーシートに①関心を持っているテーマと概要、②卒業後に考えている職業(現段階)を記載して下さい。また、可能であれば、大学図書館2階にある『社会的養護研究』Vol.3を読んでおいてください。</p>			
担当教員からのメッセージ			
	<p>・今年度は学外研究で金沢大学を拠点に研究に専念しているため、不在にしていますが、メールやZoomなどで気軽にご相談ください。</p> <p>・担当教員は児童養護施設の元職員です。全国児童養護問題研究会の常任委員(編集部長)を務めている関係で、全国各地の施設の情報を把握しています。また、職員の労働条件・労働環境について研究しているため、就職の相談や卒業後のフォローにも対応しています。</p> <p>・このゼミは、①仲間と積極的に議論し、主体的に学ぶ姿勢のある学生、②将来、児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設や児童相談所などの職員として働きたいと考えている学生、③施設見学や全国児童養護問題研究会に積極的に参加したいと考えている学生を歓迎します。メリハリのある、楽しいゼミにしましょう。</p>		